



お元気ですか！ 志村 たかよし です

続報 富山市「コンパクトシティ」視察

政府が旗を振る 「集約」と「切り捨て」のまちづくり



夕方でも人通りがない千石町通り商店街

国は「少子高齢化」や行政の「効率化」の対策として「コンパクト・プラス・ネットワーク」を全国のまちづくりに導入しようとしています。そのモデルとしてよく紹介されるのが富山市のまちづくりです。しかし、人の流れなど設定した目標にはいまだ及ばず、力を入れた中心部でも必ずしも成功しているとはいえない実態でした。前号に続いているの富山市視察報告です。

商店街から消えた生鮮食料品店

都市の中心部に人と企業を集約するまちづくり「コンパクトシティ」を03年からすすめている富山市。市の中心部に総曲輪（そうがわ）地区があります。総曲輪通り商店街の周辺に、以前は富山城の大手門につづく道として栄えた千石通り商店街と飛騨高山につながる旧



シャッターがサビついた元テラー

飛騨街道の太田口通り商店街があるのですが、八百屋、魚屋、酒屋、豆腐屋、雑貨屋、金物屋など日常生活に必要なものを売るお店が次々と閉店に追い込まれました。そのため、周りに住む人たちは、歯ブラシなどの日用品を買うために、郊外の大形店に出かけるということです。

生鮮食料品は、すこし離れたスーパーに行くそうです。このスーパーの前には、ライトレール（LRT・軽量軌道交通）



酒屋さんはギャラリーになっていました。

が走っているのですが、横断歩道にレールの大きな溝があり、シルバーカーを利用する高齢者の方は車輪がはさまり苦勞するとのこと。千石通り商店街には、きれいなギャラリー（右写真）が、2軒ありましたが以前は酒屋さんとのことでした。

中心部でもうまくいってない

市が「コンパクトシティ」の目玉として力を入れた中心部の総曲

輪通り商店街ですが、この商店街をよく見ると、うまくいつているように思えませんでした。

閉店した衣料店（写真①）、以前は3店舗あった本屋さんも全部閉店し、その1店には百円ショップが進出（写真②）、板に囲まれている撤退した大手スーパー（写真③）など深刻な状況でした。

一方、前号で紹介した「フェリオ」やその横の「グランドプラザ（広場）」も人で賑わっているという感じでもありませんでした。



写真①

総曲輪商店街の真ん中あたりの店にもシャッターが。

後悔する「移住」した住民

「集約」が進む中心部には、あちこちで再開発がおこなわれ、周辺部の住民が家を売って超高層マンションに移住しているそうですが、これもうまくいつていません。総曲輪商店街に面して建つ超高層マンション（写真④）の一階には商店が入る予定でしたが、いまだに空いている状況で（写真⑤）、移住してきた方は「夜になると商店街が暗くなり買い物にも行けなくて不便。引越さなければ良かった」と後悔しているとのこと。中心部では、いまだに再開発が進んでいます。中心部でも周辺部でも衰退が進んでいます。



写真②

百円ショップ。以前は大きな書店でした。

「コンパクトシティ」のまちづくりは、住民や中小業者が無視される一方で、大企業のビジネスチャンスや不動産投資家の利益を確保するためのものであることがはっきりしています。また、再開発への税金投入がふくらめば、福祉が削られてしまう危険があります。



写真③

板張りに囲まれた商店街にあった元大手スーパー。

この「コンパクト+ネットワーク」の考え方が東京のまちづくりにも形を変えて表れはじめました。



写真④



写真⑤

右写真は、未だにテナントが入る予定がないマンションの1階、左は商店街に面した1階。